

第13回通常総会

2007年3月21日（水）

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第13回通常総会次第

日時 2007年3月21(水)13時～14時

会場 龍谷大学 瀬田学舎 4号館 209教室

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 2006年度優秀論文賞, 第12回年次大会優秀発表賞の表彰
4. 議長選出
5. 2006年度事業報告
6. 2006年度決算報告、監査報告
7. 2007年度事業計画提案
8. 2007年度予算計画提案
9. 2007年度評議員構成
10. 2007年度役員構成
11. 閉会

以上

2006年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要活動として雑誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、通常号を企画・発行しました。英文誌に関しては、情報系の6つの学会が協力して、英文論文のリプリントを束ねた合同アーカイブ Information and Media Technologies Vol.1を発刊しました。それぞれの学会のジャーナル掲載論文のうち英文で公表された論文を対象に海外への発信を目的にしてJSTの電子ジャーナルシステムを利用したものです。言語処理学会から6件の論文が掲載されました。また、英文論文集としては、スタンフォード大学 CSLI との共同企画により、最近の「自然言語処理」に掲載された論文のうちから、日本語を対象にした優れた論文を選定し英文化してCSLI から書籍として出版する計画を2006年度に具体的に進めて2007年度に具体化する予定です。

国際交流に関しては、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力などを通じて言語処理学会として寄与していきます。2006年度は長尾ファンドを用いて、オーストラリアで開催されたCOLING-ACL 2006で表彰活動を行ないました。The AFNLP-Nagao Fundという名称で若手の研究者でアジア系の言語を対象にした優秀な論文を10件ほど選定し会議中に表彰しました。

第12回年次大会を2006年3月13日(月)から17日(金)まで、慶應義塾大学日吉キャンパスで開催しました。初日のチュートリアルは複数の講演を平行して行ない参加者は300人を越えました。本会議への参加者も700名以上で昨年度よりも150名ほど増えています。また、併設の2件のワークショップには延べで250名の参加者がありました。このように今までの年次大会で最も多くの参加者がありました。

2. 会員現況 (2006年11月29日現在、増減は 2005年12月7日との比較)

正会員	720 (+44) 名		
学生会員	140 (+17) 名		
賛助会員	14 (±0) 組織	(16口 (±0))	
定期購読会員	50 (-2) 組織	(55口 (±0))	

3. 会誌の発行

別紙の編集委員会関係資料をご参照ください。

4. 第12回年次大会の開催

◇ 開催日: 2006年3月13日(月)~3月17日(金)

◇ 会場: 慶應義塾大学 日吉キャンパス 第4校舎B棟 (神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1)

◇ プログラム

[チュートリアル講演] (2トラック各3件 計6件) 3月13日(月)

- トラック1「自然言語処理技術の新展開」
 - (T1-a) 「言語処理における識別モデルの発展 -- HMM から CRF まで --」
鹿島 久嗣 氏, 坪井 祐太 氏 (日本 IBM), 工藤 拓 氏 (グーグル)
 - (T1-b) 「Topic に基づく統計的言語モデルの最前線 -- PLSI から HDP まで --」
山本 幹雄 氏 (筑波大), 持橋 大地 氏 (ATR)
 - (T1-c) 「重み付き有限状態トランスデューサ(WFST)を用いた音声言語処理
-- 音声認識から機械翻訳まで --」 塚田 元 氏 (NTT)
- トラック2「自然言語処理の応用と周辺」
 - (T2-a) 「IT (Information Technology)の省察 -- IT と日本語をめぐって --」
山口 翼 氏 (「日本語大シソーラス」編者)
 - (T2-b) 「コーパス言語学の第2言語習得研究・外国語教育への応用」
投野 由紀夫 氏 (明海大)
 - (T2-c) 「blog マイニングと評判分析」
奥村 学 氏, 乾 孝司 氏 (東工大)

[招待講演] (2件) 3月15日(水)

- 「人間の統語処理---内部言語と他の要因の相互作用」 大津 由紀雄 氏 (慶應義塾大)
- 「話し言葉と書き言葉」 前川 喜久雄 氏 (国語研)

[一般発表 講演発表] 3月14日(火)~16日(木) 発表件数 193件

[一般発表 ポスター発表] 3月14日(火)~16日(木) 発表件数 102件

[ワークショップ] 3月17日(金)

- W1「感情・評価・態度と言語」発表件数12件、招待講演2件
- W2「言語処理と情報可視化の接点」発表件数10件

◇ 参加者数	事前申し込み	当日申し込み	合計
本大会参加者数	592	115	707 (+162)
チュートリアル	272	52	324 (+226)
ワークショップ	228	22	250 (+168)

◇ 年次大会優秀発表賞

言語処理学会年次大会優秀発表賞は、年次大会において、論文の内容およびプレゼンテーションに優れたものと認められた発表論文に与えられる賞です。また、優秀発表賞のうち特に優れたものがあれば、最優秀発表賞として選定することが前年度からとりいられました。

第12回年次大会プログラム委員会は、選考委員会での審議に基づき、次に示す2件の最優秀発表賞ならびに4件の優秀発表賞を選定しました。なお、最優秀発表賞は前年度該当なしでしたので、今回が初の授賞となります。

- 最優秀発表賞(2件)

D5-3 Web から獲得した大規模格フレームに基づく構文・格解析の統合的確率モデル

○河原大輔, 黒橋禎夫 (東大)

D3-6 学習誤り最小化に基づく条件付き確率場の学習: 言語解析への適用

○鈴木潤, 磯崎秀樹 (NTT)

● 優秀発表賞(4件)

S3-1 代表性を有する現代日本語書き言葉コーパスの設計

○山崎誠, 前川喜久雄, 田中牧郎, 小椋秀樹, 柏野和佳子, 小磯花絵, 間淵洋子,
丸山岳彦, 山口昌也, 秋元祐哉, 稲益佐知子, 吉田谷幸宏(国語研)

S3-4 人間の翻訳におけるコーパスの位置づけ

○影浦峯 (東大)

E4-5 部分目標の達成度に基づく機械翻訳自動評価

○内元清貴, 小谷克則(NICT), 小倉健太郎(NTT), 島津美和子(東芝), 張玉 潔(NICT),
介弘達哉(沖電気), 富士秀(富士通研), 松川淑子(NEC), 井佐原均(NICT)

P4-1 「逃れる」の階層的意味フレーム分析とその意義: 「言語学・心理学からの理論的, 実証的裏づけ」のある言語資源開発の可能性

中本敬子 (京大), ○黒田航 (NICT)

◇ まとめ

隔年で首都圏で開催している年次大会ですが、今回初めて慶應義塾大学が会場となりました。教室の確保のしやすさから日吉キャンパスを選びましたが、初めて日吉に来たという方も多かったようです。昨年の香川大学で参加者が激増した反動で、今回は減ると予想していましたが、昨年をはるかに上回る参加者数でした。今回はこれまでの慣習をふまえながらも、以下のような新たな試みを導入しました。

(1) チュートリアル の複数トラック化

(2) プログラム冊子の充実

(3) 企業協賛・広告の導入

また、前年度に導入されました学際的なテーマセッションも2つ開設するとともに、招待講演には、大津由紀雄(慶応大)、前川喜久雄(国語研)の両先生にお願いしました。その結果、発表件数は295件と前年度並みでありましたが、本会議の参加者は707名に達し、(過去最大の前年よりさらに150名も多い)空前の規模となりました。会員数が約800名の学会としては異例と思われます。

本会議の翌日に行われたワークショップも、「感情・評価・態度と言語」と「言語処理と情報可視化の接点」の2件が行われ、それぞれ100名を上回る参加があり盛況でした。

このように言語処理研究の活況が強く感じられた大会でしたが、規模の拡大につれて、プログラム編成の難しさ(並列セッション間でできるだけ競合が生じないようにする)や、様々なトラブル対応(部屋を間違える発表者がいたなど)が増大しました。このような手順や対応などに関して明確な方針を定めて、文書化しておく必要があると考えられます。

5. ニュースレターの発行

2006年は、ニュースレターVol.13 No.1~No.4の4号を発行し、学会運営、大会案内、会議報告など会

員への各種情報の提供を行いました。これらのバックナンバーは、学会ホームページでも閲覧できます。

6. 会議

◇理事会

計4回の理事会を開催し、新入会員の承認、年次大会の方針、顧問の増強、ACL/COLINGにおける長尾ファンドの活用方法、IMT(6学会合同英文誌編集運営会議)の覚書締結、学会ホームページサーバの移設、年次大会優秀発表賞の英文名称について審議し決定しました。また、会費納入や学会誌作成、ニュースレター発行等の学会運営についても議論しました。

理事会開催:

第60回 (2006年3月13日、慶應大(日吉キャンパス))

第61回 (2006年6月9日、慶應大(三田キャンパス))

第62回 (2006年9月1日、慶應大(三田キャンパス))

第63回 (2006年12月1日、慶應大(三田キャンパス))

◇編集委員会

別紙の編集委員会関係資料をご参照ください。

以上

2007年度事業計画

1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要活動として雑誌「自然言語処理」の発行、特集号の企画・発行、年次大会の開催、英文論文集発刊、英文誌刊行などを進めます。英文論文集としては、スタンフォード大学 CSLI との共同企画により、“Readings in Japanese Natural Language Processing”というタイトルで series from CSLI Publications on Japanese Computational Linguistics として近く刊行する予定です。最近の「自然言語処理」に掲載された論文のうちから、日本語を対象にした言語処理の論文を選定し英文化するものです。

英文誌発刊に関しては、英文論文のリプリントを束ねた合同アーカイブ Information and Media Technologies (IMT) Vol. 2 の編集作業を進めており、年内に発行する予定です。今後も毎年刊行していきます。

国際交流に関しましては、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力などを通じて言語処理学会として寄与していきます。今年度は AFNLP が主催する IJCNLP がインドで開催される予定であり、引き続き長尾ファンドを用いた協力活動を行なう予定です。

言語処理学会の15周年記念事業の一つの候補に自然言語処理に関する事典を言語処理学会が中心になって編纂することを検討しています。自然言語処理に関する基礎的な理論から様々な応用までを1冊にまとめて、自然言語処理の研究や技術の発展、WEB などへの応用の充実と広がり、自然言語処理の隣接分野との協調、国際的な研究活動への貢献などに役立つことを目指しています。

2. 会誌の発行

別紙の編集委員会関係資料をご参照ください。

3. 第13回年次大会の開催

日時： 2007年 3月 19日(月)～3月 23日(金)

会場： 龍谷大学 瀬田学舎

- ◇ 3月 19日(月) チュートリアル (10:00-17:30)
- ◇ 3月 20日(火) 本会議 第1日 (9:30-18:30)
- ◇ 3月 21日(水) 本会議 第2日 (9:00-18:00)
 - 総会 (13:00-14:00)
 - 招待講演 (14:00-16:00)
 - 懇親会 (18:30-)
- ◇ 3月 22日(木) 本会議 第3日 (9:00-18:30)
 - 特別講演 (13:00-14:00)
- ◇ 3月 23日(金) ワークショップ

- ワークショップ(W1)「言語的オントロジーの構築・連携・利用」
- ワークショップ(W2)「大規模 Web 研究基盤上での自然言語処理・情報検索研究」

4. ニュースレターの発行

前年と同様の回数と内容で発行する計画で、学会メーリングリストを通じて電子配送します。また、これらは学会ホームページにバックナンバーとして公開します。

5. 会議

◇総会

通常総会を来年3月の年次大会で開催します。

◇理事会

昨年度同様に開催します。予算のゆとりを会員に還元する施策・事業、「自然言語処理」および年次大会予行集の電子媒体の会員配布、年次大会の開催、英文誌発刊の具体化などについて審議します。

◇評議員会

総会に合わせて2008年度第1回会合を開催します。賛助会員の増員に向けての施策、学会全体の活動の活性化に向けた施策、英文誌への取り組みなどについて議論します。

◇編集委員会

別紙の編集委員会関係資料をご参照ください。

6. 2007年度評議員構成

2004－2007 年度評議員		2006－2009 年度評議員	
氏名	所属	氏名	所属
石崎 雅人	東大	相澤 彰子	NII
川尻 博光	三洋電機	赤峯 享	NEC
菊井 玄一郎	ATR	荒木 健治	北大
木村 和広	東芝	伊東 秀夫	リコー
小林 雄二	キヤノン	宇津呂 武仁	筑波大
白井 英俊	中京大	遠藤 勉	九工大
仲尾 由雄	富士通	梶 博行	静岡大
久光 徹	日立	柏野 和佳子	国語研
増山 繁	豊橋技科大	工藤 孝史	札幌大
村田 稔樹	沖電気	佐藤 理史	名大
桃内 佳雄	北海学園大	白井 清昭	北陸先端大
		高山 泰博	三菱電機
		田中 英輝	NHK
		中澤 恒子	東大
		那須川 哲哉	日本IBM
		古瀬 蔵	NTT
計 11 名 (50 音順)		計 16 名 (50 音順)	

7. 2007 年度役員構成

役員名	氏名	所属
会長	石崎 俊	慶應大
副会長(総編集長兼務)	池原 悟	鳥取大
理事(編集委員長)	橋田 浩一	産総研
理事(編集担当)	金水 敏	大阪大
理事(編集担当)	東条 敏	北陸先端大
理事(編集担当)	中岩 浩巳	NTT
理事(事業担当)	井佐原 均	NICT
理事(事業担当)	河原 達也	京大
理事(事業担当)	馬 青	龍谷大
理事(事業／渉外担当)	加藤 恒昭	東大
理事(渉外担当)	田村 直良	横浜国大
理事(渉外担当)	永瀬 治郎	専修大
理事(財務担当)	斎藤 博昭	慶應大
理事(総務担当)	丹羽 芳樹	日立
理事(総務担当)	森 辰則	横浜国大
	(以上 15 名)	
監事	飯田 仁	東京工科大
監事	仁科 喜久子	東工大
	(以上 2 名)	
顧問	長尾 真	NICT
顧問	田中 穂積	中京大
顧問	飯田 仁	東京工科大
顧問	辻井 潤一	東大
顧問	島津 明	北陸先端大
顧問	中川 裕志	東大
	(以上6名)	

会誌編集委員会 2006－2007 年度		
総編集長	池原 悟	鳥取大
編集委員長	橋田 浩一	産総研

以上